

シグマ研究委員会  
4年度第2回運営委員会議事録

日 時： 1992年6月19日（金） 13:30～17:30

場 所： 日本原子力研究所本部 第3会議室

出席者： 石井（原研、委員長）、中嶋（法大）、北沢（東工大）、中村（東北大）、瑞慶寛（日立）、若林（動燃）、菊池、石黒（平岡代理）、前川、長谷川（以上原研）

幹 事： 中川、中島（原研）

オブザーバー： 松延（住友原工）、五十嵐（NEDAC）、馬場（東北大）、岸田（CRC）、川合（原研）、山野（住友原工）

**配布資料**

1. 平成4年度第1回運営委員会議事録（案）
2. NEANSC核データ評価国際協力ワーキンググループ第4回会合
3. 平成4年度シグマ特別専門／研究委員会議題（案）
4. 過去の諮問・調整委員会への諮問事項
5. NEANSC核分裂生成物核データ専門家会合報告
6. Summary Record of the First Meeting of the Working Party on Review of Data Needs in the 90's and the Data Centres Network(Draft)
7. NSC project summary
8. 1992年核データ研究会第1回実行委員会議事メモ
9. 原子力学会（平成4年10/20-22）特別会合（案）
10. 諮問・調整委への諮問事項（案）

**議 事**

**I. 議事録確認**

前回4月16日の議事録（配布資料1）を確認した。

**II. 報告事項**

**1. NEANSC核分裂生成物核データ専門家会議について**

菊池氏が1992年5月25日（月）～27日（水）に東海研で開かれた上記会合について配布資料5により次の通り報告した。参加者は50名で、うち外国人は21名であった。会議はスムーズに進められ、成功した。ProceedingsはOECDから出版される予定である。数編の原稿が未提出である。

**2. NEANSC評価国際協力ワーキンググループ第4回会合について**

菊池氏が1992年5月28日（木）～29日（金）に東海研で開催された上記会合について配布資料2により次の通り報告した。各プロジェクトの現状の報告のうち特にENDFが40%強の予算削減により大幅な活動低下を来たしていること、JEF-2が今年7月頃完全公開される

予定であることなどが目立った。11のサブグループのうち約半数が1年内に終了する予定であるが、残りのサブグループはまだ数年は続く予定である。新しいサブグループとして高エネルギー核データが提案されたが、NEANSCの他のプロジェクト（中高エネルギー核データ計算コードの比較）との関連で、92BNLシンポジウム（1992.10）で結論を出すことにした。NEANSCへ提出し承認を得るための評価国際協力実施協定案を作成した。主な変更点は、IAEAを第4の参加プロジェクトとして認めたことであるが、EFFが主張した統一ファイルの作成はJENDL, JEFからの反対で入れられなかった。次回会合は1993年6月上旬、フランスCEN CadaracheでJEF/EFFのワーキンググループ会合と併せて開催する。いくつかのサブグループは92BNLシンポジウムの際会合を開く予定である。

また配布資料6により1992年5月26日（火）に東海研で開催された90年代におけるデータ需要とデータセンターネットワークのレビューに関するワーキングパーティの第1回会合について次の通り報告した。データニーズについては、分野毎にプライオリティ付きのレポートを各国から秋までに用意する。そのニーズを満たすための理論、測定、評価、検証のプロセスを考える。データセンターネットワークについては、各センターのマンパワーの配分を検討し、今後の対応を検討する。次回は10月12日に'92BNLに合わせて開催する。

### 3. 第2回NEANSC会合について

菊池氏が1992年6月3~4日にOECD本部で開催された上記会合について配布資料7により次の通り報告した。会合には朝岡原研理事がNEANSC委員として出席し、秋元原研システムセンター室長が随行した。NEANSCのプロジェクトが当初は全てTask orientedであったが、次第にDiscipline orientedのものも認める雰囲気に変わってきたているようである。

## III. 審議事項

### 1. 本委員会の開催について

配布資料3を検討し、核データ研究会（1991年報告と1992年計画）、高エネルギー核データ専門家会議報告を議題に追加した。また国内研究機関の核データ活動の内訳を整理し、日本荷電粒子反応データセンターの報告をしてもらうことにした。細部は事務局で調整することとした。

### 2. 1992年核データ研究会について

馬場氏が配布資料8を説明した。プログラムの骨子はおおむね原案通り承認されたが、常温核融合はやめたほうが良いとの意見があり、実行委員会で検討することにした。また日程の関係から最終プログラムは実行委員会で決定することとした。

### 3. 日本原子力学会「核データ・炉物理合同特別会合」のテーマについて

北沢氏が配布資料9により上記会合のテーマを提案した。提案されたテーマのうち、原研におけるオメガ計画の進展（西田、向山）、わが国における崩壊熱基準（木村（京大工））、NEANSC会合（評価国際協力ワーキンググループ、核分裂生成物核データ専門家会議）（吉田（東芝））とすることにした。座長は北沢氏と事務局で相談して決定することにした。

### 4. シグマ委員会30周年記念行事について

核データ研究会とは別に記念講演会とレセプションを開くことが提案されたが、予算の関係で来年度早々に行うこととした（その後原研物理部の内部努力により丁度30周年に当たる1993年2月に開催することが検討されている）。またパンフレットを作成してはどうかとの意見が出された。これらの事業を遂行するために、アドホック委員会を作ることとし、委員の人選は事務局に一任した。

#### 5. 質問・調整委員会への質問事項について

配布資料4を参考に質問事項を検討した。「JENDL-3の普及の方策」と「今後の核データ研究活動の戦略」の2項目が提案され、質問事項としての可否が討論された。その結果「JENDL-3の普及の方策」はアドホック委員会を作つて検討することになり、委員の人選は事務局に一任された。「今後の核データ研究活動の戦略」は国際協力による実験活動も含め、ブレークダウンした答申を出してもらうよう、質問することとした。

#### IV. その他

次回は9月10日（木）とする。

宿題事項は下記の通りである。

担当	宿題事項	期限
北沢、事務局	原子力学会特別会合の座長の決定	至急
事務局	30周年記念行事実行委員会の委員の決定	至急
事務局	「JENDL-3の普及の方策」に関する 検討委員会の委員の決定	至急
事務局	質問・調整委員会への質問事項をまとめる。	至急